

自転車政策研究小委員
自転車の交通・安全教育の動向

2017.6.10

自転車の交通安全教育の新潮流

日本交通政策研究会 H28研究プロジェクト

金 利昭 茨城大学

目 的

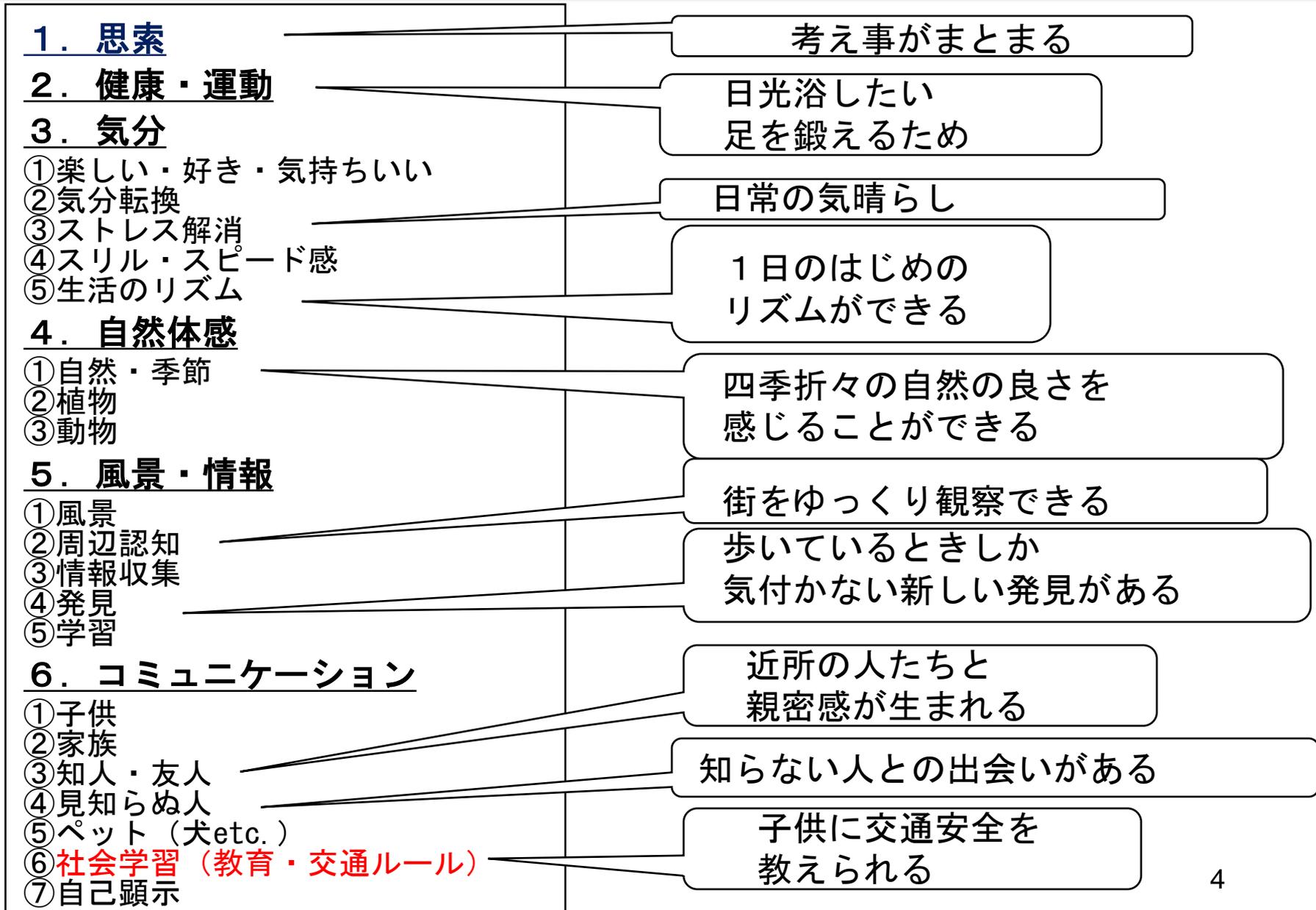
小学生児童を対象にした**自転車交通安全教育**を教育的・社会的見地から捉え直し、新しい自転車交通安全教育のあり方と方法を提言することを目指して以下三点を目的とした。

- ① 国内外の新しい**自転車交通安全教育の方法や事例**を収集・整理する。
- ② **自転車通学を認めている小学校**での実態調査とアンケート調査により、**自転車通学をしている児童**と**していない児童**の差異を明らかにする。
- ③ 子供に対する**自転車交通安全教育**を、より広い教育的・社会的見地から捉え直し、**新しい位置づけとあり方及び方法**を提言する。

好き／嫌い の理由 ⇒ 移動の利点・価値

機能的利点	意味的利点	移動の意味
<p>010 安全性(交通安全性)</p> <p>020 防犯性</p> <p>030 防災性</p> <p>040 速達性(所要時間)</p> <p>041 はやさ</p> <p>042 時間の有効活用</p> <p>043 その他</p> <p>050 低廉性(経済性)</p> <p>060 確実性(信頼性)</p> <p>061 確実性</p> <p>062 渋滞</p> <p>063 その他</p> <p>070 自由性(随意性)</p> <p>071 主体属性(荷物・グループサイズ)</p> <p>072 付帯行動(音楽・本・睡眠・アルコール)</p> <p>073 時刻</p> <p>074 行動範囲(距離・坂道)</p> <p>075 ルート選択(寄り道・狭所)</p> <p>076 スピード(自分のペース)</p> <p>077 天候</p> <p>078 便利</p> <p>079 その他</p> <p>080 簡便性</p> <p>081 接続(乗り換え・アクセス)</p> <p>082 駐車・管理</p> <p>083 楽・気楽・手軽・面倒でない</p> <p>090 快適性</p> <p>091 身体的制約</p> <p>092 疲労</p> <p>093 移動環境(音・光・混雑・温度)</p> <p>094 プライバシー(他人の目、服装)</p> <p>100 環境適合性</p>	<p>110 思索(考え事・準備)</p> <p>120 健康・運動</p> <p>130 気分</p> <p>131 楽しい・気持ちいい・好き</p> <p>132 気分転換</p> <p>133 ストレス解消</p> <p>134 スリル・スピード感</p> <p>135 生活のリズム</p> <p>136 その他</p> <p>140 自由・季節</p> <p>141 自然・季節</p> <p>142 植物</p> <p>143 動物</p> <p>144 その他</p> <p>150 風景・情報</p> <p>151 風景</p> <p>152 周辺認知(周辺観察・行動範囲)</p> <p>153 情報収集</p> <p>154 発見</p> <p>155 学習</p> <p>156 その他</p> <p>160 コミュニケーション</p> <p>161 子供</p> <p>162 家族</p> <p>163 知人・友人</p> <p>164 見知らぬ人</p> <p>165 ペット(犬など)</p> <p>166 社会学習</p> <p>167 自己顕示</p> <p>168 その他</p>	

意味的利点の内容



活動報告

- ① 我が国における安全教育の現状と欧州（イギリス、フランス、デンマーク、オランダ）との制度比較を行った。
- ② 京都府美山町で開催されている「ヨーロッパ（デンマーク）発の自転車教室～ウィーラースクールジャパン～」の活動を調査した。
- ③ デンマークやオランダの子供の自転車教育についての講演会に参加して情報収集を行った。
- ④ つくば市で行われている子供の自転車教室に参加して、ホンダ製自転車シミュレータや様々な体験を通して楽しみながら交通安全（止まって左右後ろを確認）を学ぶ先進事例を調査した。
- ⑤ 30年以上前から自転車通学が許可されているつくば市立小野川小学校の交通安全教育や自転車通学の実態及び意識を調査し、自転車通学をしている児童としていない児童の行動と意識を比較することにより、児童に対する実践的自転車交通教育の効果を把握した。

成果報告

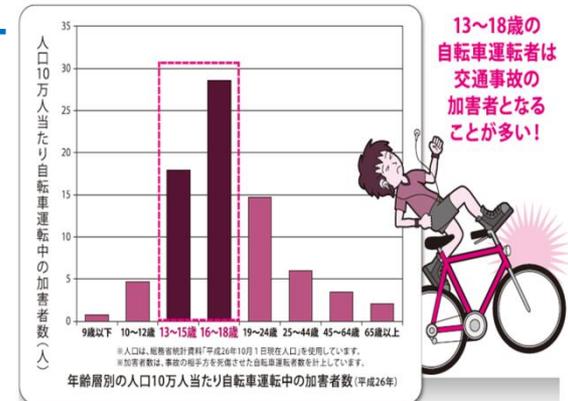
1. 日本とイギリスでは、小学校での自転車教育は義務化されていないが、フランス、デンマーク、オランダでは義務化されている。特にフランスでは**市民的能力(社会リスク対応)を育成するもの**として位置づけられている点が興味深い。またデンマークには楽しみながら学べる「自転車ゲーム」があること、**自転車運転技術を重視**していること、自転車文化を創造することを国策とし、あらゆる場面で自転車を取り上げていることが注目される。
2. 国内の新しい自転車交通安全教育の実践活動事例を収集・整理した結果、これまでにない指導方法や考え方として、児童自ら楽しく自主的に体験・実践していたこと、**公道に出ることを前提**にして、自転車は人生を豊かにする**子供の成長を支える道具**であるといった考えなどが特徴的であった。
3. 自転車通学を許可しているつくば市立小野川小学校でのアンケート調査からは、自転車通学者と自転車通学者以外での**明確な差異は把握できなかった**が、関係者へのヒアリング調査からは、小学生から自転車を実践的に利用することにより**実践的安全意識と危険回避能力が向上しているとの指摘**を受けた。
4. これからの子供に対する自転車交通安全教育の位置づけと方法について、以下4点の重要性を指摘した。
 - ① 自転車の子供の成長に繋げるといった考え(集団性、遵法性、達成感、社会でのリスク対応)
 - ② 公道に出ることを前提にした教育
 - ③ 遊び、体験、旅の道具の視点からの交通教育
 - ④ 座学と技術の両面からの交通教育

研究の背景

- 利便性, 経済性, 健康志向の向上, 環境面の配慮
⇒ **自転車利用**が高まっている.



- × 自転車利用者のマナーの欠如
中高生が自転車交通事故の加害者



交通事故総合分析センターの統計→人口10万人当たり
自転車運転中の加害者数は13~18歳が多い

現行の交通安全教育

自転車利用5則に加え、
警察や学校が行っている新しい交通安全教育

◆ スケアード・ストレート方式



交通事故を再現してもらい、事故の
衝撃から危険行為を未然に防ぐ方法

◆ 事故を起こしてしまった場合の 賠償金について教える



裁判にまで及んだ自転車交通
事故事例の紹介等

自転車利用に対して消極的なイメージ

→ 自転車の持つ利便性や利用を
促す効果は期待できない

フランスの交通安全教育

- 近年の交通教育制度の変遷
 - ・1993年：中学校で交通安全教育を体系化
 - ・2002年：小学校の教育カリキュラムにも交通安全教育が繰り込まれて義務化
- 教育方針
 - ・幼稚園から高校終了時までの教育の連続性において道路の危険性に対する知識と自覚的な行動の習得を組み込む
 - ・「市民教育」科目として、社会の中の様々なリスクについて学ぶ
- 小学校での交通安全に関する達成目標
 - ・歩行時：19項目 車同乗時：10項目 自転車利用時：14項目
- 特徴
 - ・小→中→高と継続した教育制度（免許制度に接続）
 - ・チェック内容は、小学校高学年から始まり、中学校では2回の試験を実施、証明書（APER、ASSR）発行
 - ・中学校で得られるASSR証明書の交通教育互換（BSR証明書）により、原付免許学科試験免除

デンマークの自転車交通教育

活気のある健康的な都市の創造 = (合致) = 自転車

Keyword : 自転車文化 ⇨ すべては子供から始まる

自転車ゲーム (6 CYCLING GAMES)

GETTING STARTED WITH CYCLING GAMES

Nursery school children and school children can have great fun cycling. Cycling helps children to be happy and healthy – cycling is an activity that benefits everyone and lasts a lifetime.

FUN AND EFFECTIVE
Games offer the most enjoyable and effective form of cycle training. Making and using soap bubbles helps children get used to their bikes. Cycling games help children to develop, as children experience and learn through movement.

Nursery school children are of course too small to cycle by themselves in traffic, but they are not too small to learn how to cycle. If they become proficient at it, they will be much better at learning the rules of cycling and how to deal with traffic lights and other road users when they have to cycle in traffic later on.

EASY TO GET STARTED
6 CYCLING GAMES describes a few cycling games which are easy for parents and teachers to get started. Children as young as two can take part in the simpler games. Some games can be played with just one child, while others are aimed at larger groups. The games described here are just examples. Make up your own variations or think up entirely new games of your own. Remember children learn best when they are having fun.

Traffic: Only play on your bike in a safe, traffic-free environment.

Helmets: Remember to use a cycle helmet – and take it off when the game is over.

Bicycles: Bikes should not be too big, otherwise the children will find it difficult to keep their balance.

Scratches: It is better to fall off your bike 100 times in the playground than falling off once in traffic.

6 CYCLING GAMES
Fun and effective cycle training for all children and their parents.
Cycling makes children healthy and happy – and turns them into safe and confident cyclists.
6 CYCLING GAMES is written by the Cycling Embassy of Denmark with the help of the Danish Embassy in London.
www.cycling-embassy.org

6 CYCLING GAMES
FUN CYCLE TRAINING FOR ALL CHILDREN

Once you discover the freedom of cycling, and the excitement of getting around, that's it, you are a cyclist for life. In my family we are all devoted to our bicycles. Cycling is good for our health and for the environment. Join us!

Binger Kilo-Jørgensen,
Ambassador of Denmark, London

2-3歳から開始

- ・自転車の乗りながら実施するよく知られたゲーム(遊び)
- ・単純を保つ(複雑にしない)
- ・(子供にとって)楽しくする・・・自転車の乗ることが楽しい

子供たち

- ・自転車の自由を発見する
- ・生活のための自転車利用者になる



デンマークの自転車交通教育

- 継続的教育機会：小学校では交通教育の義務化(交通教員の配置)

- ① 理論(テキスト・教科書)
- ② 実技・テスト
- ③ 保護者へフィードバック

3-6 歳	子供交通クラブ 幼稚園のための交通教材
6-7 歳	歩行者試験
9 歳	自転車小試験
12 歳	自転車試験
14-16歳	交通テスト/交通大使
16-17歳	教材(原付自転車免許)
15-21歳	青少年教育・キャンペーン
18-21歳	教材(自動車運転免許)

なぜ「自転車」なのか？

自転車は、**子供の発達を助ける**

- ・体力的に
- ・運動能力的に
- ・精神的に
- ・認知能力的に

サイクリング

- ・社会活動に必要となる
- ・喜びを生む
- ・子供の自尊心を育む
- ・**社会性を育む**

教育学上—子供の**多面的な自己開発**・・・乗り物というだけではない

- ・社会性
- ・言語
- ・自然と自然現象
- ・文化的表現と価値観
- ・身体と動き(運動能力、強さ、忍耐、運動、健康と幸福)
- ・研究知見「**学校に自転車や歩いていくと、子供は学校でより集中しやすく、より多く学ぶ**」

つくば市自転車シミュレーター教室

調査日 2016年8月24日

主催：茨城県つくば市危機管理課

屋内の限られた空間で、**体験形式**で、児童が**遊び**も踏まえながら**楽しく**自転車交通安全について学べる工夫が施されている

- 自転車シミュレーター等を活用し、身を守るために必要な「**止まって観る**」を指導
- 児童が興味をひくような**遊び・パズル**を用いて交通ルールを指導



【アンケート結果】「自転車シミュレーターは楽しかった」、「また参加したい」など
自転車シミュレーター教室に対してプラスの意見が多い

つくば市自転車シミュレーター教室

最初の注意事項

- ① 自転車は車の仲間のため、左側の端を走る。
- ② 自転車の乗り降りには左から。右からだとも車が後ろから来て危険。
- ③ ブレーキの掛け方は親指以外の4本の指全部でかける。乗る時から走り出す時までブレーキをかける。
- ④ 乗る前に後ろから車が来てないか確認し、乗ったら「きほんのしせい」右足ペダル、左足地面。右足地面だと転倒した場合車道に倒れてしまい危険。
- ⑤ 走り出す前に、後ろから車が来てないか確認。交差点では右左前後ろの安全確認



開会式の様子



危機管理課の方による「きほんのしせい」での安全確認の指導

つくば市自転車シミュレーター教室

筒実験

- 中が見えない筒の中からボールが急に出てきたらぬいぐるみは救えるか？
- 透明な筒に布を巻き中が見えない筒からボールを入れ、筒の反対側から出てくるボールをぬいぐるみにぶつかる前に取ることができるか？



【狙い・効果】

- ✓ 見えないものへの危険さ、危機の対象を見ることの大切さを子供たちに実感してもらうことを目的としている。
- ✓ ボールが見えないとぬいぐるみにぶつかってしまう、ボールが見えればボールがぶつかるのを防げるということを児童に体験させ、見えない危険に対し、道路でも見通しの悪い場所では止まって見ることに加え、周囲の状況を見ることがどれだけ大事かという事を児童に伝えることができる。

つくば市自転車シミュレーター教室

反射材体験

- ゴーグルライト等を使用し、暗闇の中で車のライトが反射材に当たったとき、自動車ドライバーから対象がどのように見えているのか体感できる。
- 反射材の効果を見て知ることができる。



【狙い・効果】

- ✓ ゴーグルライトを使用して、自動車ドライバーの目線になって反射材を見ることで反射材を付けることがどれだけ大切かを知ってもらう。
- ✓ 保護者にも体験してもらうことで、保護者から子供に夜間の危険さを働きかけてもらう。

つくば市自転車シミュレーター教室

さいころパズル

- 遊びの中で交通ルールを覚えてもらう。
- 交通に関する絵をさいころで組み合わせて作ることで交通ルールを学ぶ内容。
- 楽しい思い出と一緒に覚えてほしいという考え。



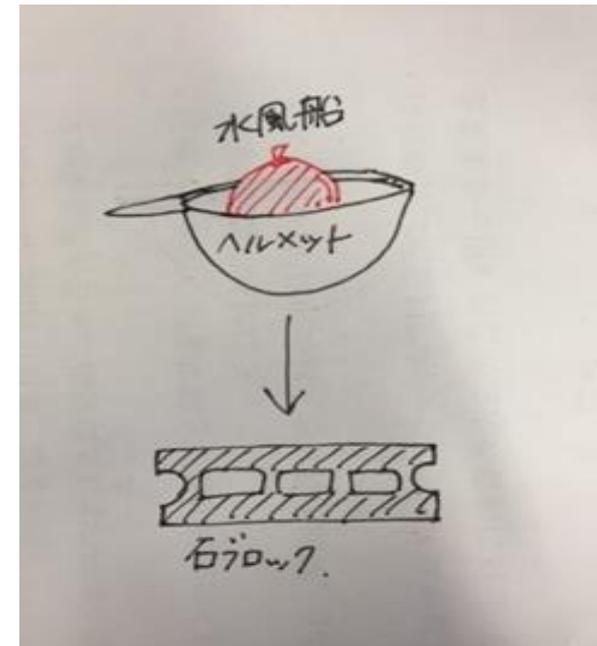
【狙い・効果】

- ✓ ゴーグルライトを使用して、自動車ドライバーの目線になって反射材を見ることで反射材を付けることがどれだけ大切かを知ってもらう。
- ✓ 保護者にも体験してもらうことで、保護者から子供に夜間の危険さを働きかけてもらう。

つくば市自転車シミュレーター教室

ヘルメット実験

- 水風船をヘルメットの中に入れた場合と、水風船だけの場合で、石ブロックに落とす。水風船は人の頭の代わり。
- そのまま水風船だけを落としたときは、水風船は割れる。ヘルメットの中に入れたときは、水風船は割れない。



【狙い・効果】

- ✓ ヘルメットの大切さを見て感じてもらうことが出来る。
- ✓ 実際にその実験を見て衝撃を受け、自転車に乗るときは必ずヘルメットを付けるようになった児童がいる。保護者からの反応も良い。

つくば市自転車シミュレーター教室

まとめ

- ① 従来の交通安全教室では交通ルールの決まりを指導員が指導し、児童が聞くという受動的な講義形式が多く、児童の印象に残らないと思われる。



- ✓ 交通ルールなど警察で指導している内容を児童対象にどう伝えればわかり易いか、どう教えるかなど伝え方の部分を工夫している。
 - ✓ 体験形式、遊びも踏まえながら、楽しく、疑似的に児童自身が体験
 - ✓ 『なぜ交通ルールで決まっているのか』 『なぜ危険なのか』
- ② 自転車シミュレーター教室は、自転車の交通安全とプラスイメージを与えることができ、自分自身が体験することで印象付けることができると考えられる。
 - ③ しかし、教育効果の実証は課題である。

ウィーラースクール in 京都美山

調査日

2016年7月18日, 31日

- ベルギーのカリキュラムがベースの**実践的自転車教室**
- 自転車愛好家(全国のサイクリスト有志)のボランティア
合言葉:「一人でも多くの子どもに自転車の楽しみを」
- 主な対象:**幼稚園児から小学生**



座学



操作技術の向上



実走



自転車の
仕組み

地域住民との
触れ合い



自転車を乗った先に
楽しみが待っている

川遊び

ウィーラーズスクール in 京都美山

特徴的な考え方, 指導方法

- 公道に出ることを前提
⇒子供が**社会の一員**となり, **社会のリスク**も体で感じる
- 自転車に**楽しく乗るため**の交通ルールやマナー
⇒交通ルールや自転車技術だけでなく, サイクリングや川遊び等をセットにすることによって, 自転車の楽しみを子供たちが知ることができるといった考え
⇒交通ルールやマナーを**学んだ先には楽しみが待っている**
- 自転車は人生を豊かにする, **子供の成長を支える道具**であるといった考え



ウィーラーズスクール in 京都美山

タイムスケジュール

時間	内容
5:15	スタッフ集合
5:30	受付開始(ロングライド お手伝い)
6:30	体育館受け入れ開始(ウィーラーズスクール児童)
7:00	座学(ブラッキーさんと南丹警察)(体育館)
8:00	スクール開始(グラウンド)
9:00	集団走行練習(未就学児以外)
9:30	サイクリングスタート(未就学児以外)
	未就学児は徒歩で移動
10:00	静原公民館到着
10:30	川遊び・昼食
14:30	川遊び終了
15:30	保護者に引き渡し・片づけ
16:30	調査員帰宅
17:30	スタッフミーティング



ウィーラーズスクール in 京都美山

座学の流れ

【狙い・目的】

- **自転車への理解を深める**
 - － 自転車の歴史や社会的背景を紹介し、自転車の可能性を伝える
 - － 自転車について深く知ることによって興味を持たせる。
- **安全に関する知識を深める**
 - － **メンテナンス**の必要性(安全に走行するための準備を怠らないこと, **道具に対する愛着**をもつこと)
 - － 交通安全のルールとマナー(道路交通法の確認, 特に**歩道走行時のマナー**を重点的に伝える)
 - － 安全な装備(**ヘルメット**, **グローブ装着**の必要性)
- **自転車での楽しみ方の提案**
 - － 自転車は子供たちが**社会に出る**ことが出来る身近な方法であり, 自分の**人生を豊かにするツール**であるということを知ってもらう。

自転車の歴史	<ul style="list-style-type: none">・ 普段何気なく乗っている自転車に対して興味を持たせるために, 自転車の歴史をクイズや動画で説明していた。(図 3-2-1-1)
日本とヨーロッパの自転車環境について 交通ルール・マナー	<ul style="list-style-type: none">・ 図 3-2-1-2 のような写真を見せることでヨーロッパと日本の自転車環境の違いを子供たちの前で比較。・ 片手運転や二人乗りなどバランスを取りにくくなることで事故に遭う危険性が高くなるといった指導の仕方。交通ルールで決まっているから守るといった指導はしない。・ 小学生は歩道を通行することが可能であるので, 歩道の利用の仕方については, 歩道走れるのが当たり前でなく, 歩行者が一番で自転車は歩道を借りている立場である。子供でも歩道は歩行者が一番目で自転車は二番目という考えを持たせる。
メンテナンス・安全な装備	<ul style="list-style-type: none">・ 自分の身を守るためにはまず乗る自転車の安全性から確認する必要がある。・ 自分の乗る自転車は, 自分で責任をもって整備するという意識を持たせる。(今回は実際に自転車整備を行ってはいないが, 自転車整備について詳しく行う回もある。)・ ヘルメットの必要性(頭を守る), 手袋をつける(手のひらを守る), 夜は明るい服装をする(目立つ服装を心がける), 手信号(自分のやることを事前にまわりに教える)・ 上記のことから, 自転車に乗ると同時に, 自転車を通じて社会に対して視野を広げていくということを目的としている。自分がいることを周りに知らせる必要性など。
授業時の様子	

実技＝安全走行のためのテクニックの習得

- 公道に出ることを考え、路面の急変、段差などに慣れておくことで事故の危険を減らす。
- 交通ルールを守っていても、危険場面がなくなるわけではないので、最後に自分の身を守れるのは自分だけであり、そういった瞬間のために自転車の操作技術は向上するべき
- ポイント＝直進とブレーキング、ハンドルコントロール、速度のコントロール、バランスコントロール

一本橋走行

まっすぐ走る練習、
バランスを取れるようにし転びにくくする練習

【指導内容】

- ・発進するとき、止まるときには
左足地面、右足ペダルを意識させる
- ・まっすぐ前を見て走行する



スラローム

路面の急変に対応したハンドリングを可能にすることによって
実際に公道に出た時の事故の危険を減らす。体の使い方を覚える

【指導内容】

- ・まっすぐ前を見て走行する
- ・ハンドルを曲げるのではなく、体重移動させる



シーソー

(段差練習)
(今回は未就学児のみ)

段差に対して、自転車をどう扱うかを慣れておくことで
路肩や急激な路面変化に対して事故の危険を減らす

【指導内容】

- ・発進するとき、止まるときは**左足地面、右足ペダル**を意識させる
- ・何回も挑戦し、慣れることが重要



ウィーラーズスクール in 京都美山

特徴的な考え方, 指導方法

(1) ネガティブな教え方はしない

- 「〇〇してはダメ, 〇〇はやるな」といったネガティブな言い方・禁止ではなく, 「〇〇したら危ない」「〇〇したら周りの人に迷惑がかかるよ」といった, 自分で考えさせる言い方
- 周りから守るのは限界があり, 子供自身に考えさせる教え方をすることによって, いざという時に危険を回避できる能力を子供たち自身が持つことができると考えている.

(2) 外(公道)を走ることを前提

- 交通ルールやマナーを学んだ先に何があるのか, つまり何のために交通ルールやマナーを学ばなければならないのかというのを体感してもらうことを目指しているため, 交通ルールやマナーの後にサイクリングや川遊びもセットにしてる.
- 外に出る事で子供は社会の一員となることができ, 自転車の危険を実際に体で感じることができる. また自転車に乗る楽しさも知ることができると, 自転車に対してプラスの印象を持つことができると考えている.

(3) 保護者の付き添いはさせない・できるだけ子供たちにやらせる

- 未就学児以外の保護者の付き添いはさせない. その理由は, 自分自身で解決する能力を身に付けさせるため. できるだけ子供たちに任せて, 大人が周りから言うのではなく子供たちの間で学ばせる. これにより子供たちの中で社会性を身に付けることができ, 実際に大人が指導する前に子供たちの中で問題を解決する場面が多く見られた. (サイクリング中に班の仲間が手信号をしていなかった時, 大人のスタッフではなく, 班員の子供が注意する場面が見られたり, またチェーンが外れてしまった子供がいた時にも班員の子供が直してあげている場面が見られた.) 子供たちの間で学びあうことで, 自転車のルールだけではなく, 社会的なルールや集団でのルールも学ぶことができると考えられる.
- これにより小学校高学年児が未就学児や低学年児に指導するといったサイクルが出来上がる.

(4) 小さい頃から学ぶ事に意味がある・自由に楽しく

- 子供たちは素直であり, 楽しいことには一生懸命取り組む.
- 小さい頃から教室に通い, 学ぶ事で, 大人になった時に危険なことはしなくなるといった考えを持っている.

(5) 最後に自分を守るための操作技術

- 交通ルールを守っていても, 危険場面がなくなるわけではないので, 最後に自分の身を守れるのは自分だけであり, そういった瞬間のために自転車の操作技術は向上するべきであると考えている.

(6) その先には自転車の楽しみ

- 交通ルールや自転車技術だけでなく, サイクリングや川遊び等をセットにすることによって, 自転車の楽しみを子供たちが知ることができると考えている.

小野川小学校～自転車通学の効果～

今回取り上げた事例では特徴的な交通教育を行っていた

- 教室での様子のみでの把握
- 普段の自転車走行の**効果は不明**分かっていない
- 実施開始から約10年ほどしか経っていない、効果を確認しづらい

つくば市小野川小学校

- ・ 全国では珍しく**小学校1年生から自転車通学が許可**されている
- ・ 小学校での交通安全に対しての**意識が高い**
- ・ **30～40年以上前**から自転車通学が許可

実践的な自転車交通教育の効果の把握

観察調査

意識調査

自転車通学の観察調査

下校時(2回)登校時(1回)の計3回実施

自転車通学者の後方から調査員が自転車で追跡

追跡調査地域	小学校周辺, 高野台方面, 北中島方面
調査日時	平成28年11月21日(月)雲り 14:45~15:45(下校) 平成28年11月22日(月)雲り 7:00~8:00(登校) 14:45~15:45(下校)
調査方法	自転車通学者の後方から調査員が自転車で追跡
備考	小学校から許可は得てある
	調査時は腕章の着用あり

観察調査で見られた交通行動 ①



左) 歩行者を配慮し道路から歩道に進入する際、一度**自転車**を降りて進入

中) 安全のため横断歩道は**自転車**を降りて押し歩き

右) 自転車の走行位置と歩行者の通行位置が**しっかりと分担**されていた

観察調査で見られた交通行動 ②



左) 右側にしか歩道がない道路での**車道左側を**一列走行

中) 自転車レーン設置場所での**一列**走行

右) 小学校周辺, 見通しの悪い坂道での**自転車押し歩き**

自転車通学の児童は安全意識が高く、
交通ルールの認知・遵守も高いように思えた

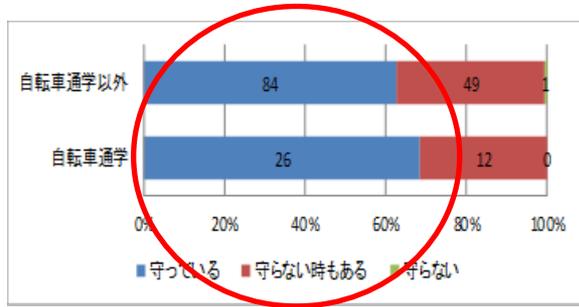
小野川小学校児童の意識調査

実態調査では**走行マナーは良い傾向**が見られた
→ **意識面での比較調査(自転車通学 VS. 他手段)**

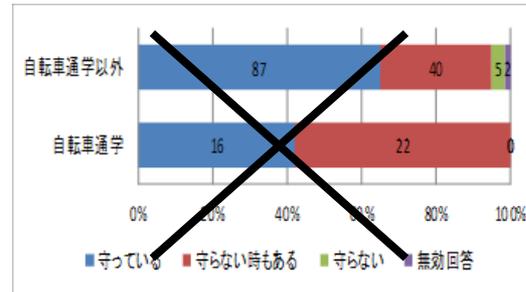
調査対象	つくば市小野川小学校4～6年生
調査日	2017年1月10日(配布)12日(回収)
配布方法	配布・回収:小学校を通じて児童へ
配布部数	178部
回収率	96.6%(172部)
主な内容	個人属性(性別, 学年, 自転車利用頻度) 法令認知・遵守(通行位置, 並列, ヘルメット着用, 標識, 安全確認) 整備点検(自転車乗車前点検等) その他(自転車の好き嫌い, 自転車での遠出の有無)

意識調査結果

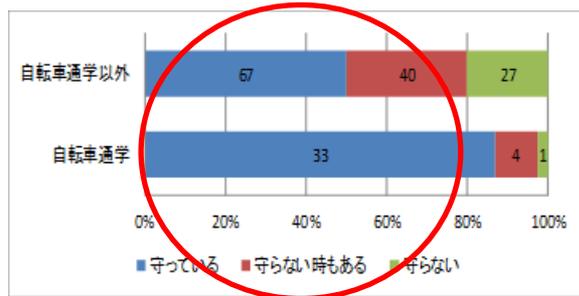
法令遵守の結果について



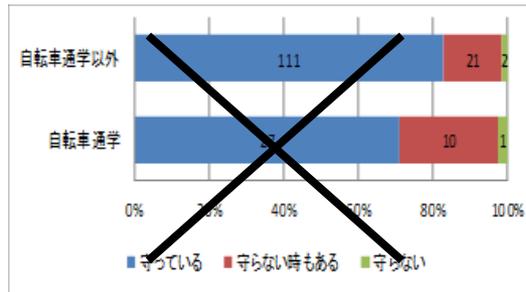
左側通行



並列運転



ヘルメット着用



道路標識

その他(抜粋)

自転車通学者の方が優位

・13歳以上の車道通行の認知

・自転車での遠出の有無

自転車通学者の方が劣位

・毎回の自転車点検の有無

差異が出なかった

・自転車の好き嫌い

・自転車点検確認方法

実態調査では良い傾向が見られたものの、アンケート調査からは効果が把握できなかった

- ✓ アンケート調査票が不十分であったこと
- ✓ 児童の質問理解が十分でない

小野川小学校出身者へヒアリング

アンケート結果の疑問点および小野川小学校の自転車通学について小野川小学校出身者にヒアリングを行った。

調査結果（抜粋）

- ・自転車通学者の結果は**交通ルールを意識している証拠**ではと捉えていた。
- ・自転車通学以外の児童が実際にアンケートの結果ほど守れているはずがなく、交通ルールを守れていないことを、自身で把握していないということが問題であるとしている。
- ・自転車通学者の**ルールやマナー**はしっかりしている。
集団で通うことで上級生が下級生を面倒見るといった**集団のルール**も学んでいるのではないか。
- ・自転車通学者は小さな事故は多いが**大きな事故はない**という意見。

小学生から自転車を実践的に利用することにより、**安全意識が向上しているとの指摘**を受けた。

まとめ

① 新しい自転車交通教育の特徴

これまでの自転車交通安全教育では取り上げられてこなかった指導方法や考え方を把握することができた。

- ・ 児童自ら楽しく自主的に体験, 実践する
- ・ 楽しみながら交通ルールを指導
- ・ ネガティブな教え方はしない

② 自転車通学者と自転車通学者以外の比較

- ・ 意識調査では差異は把握できなかった
- ・ ヒアリング調査では, 小学生から自転車を実践的に利用することにより安全意識が向上しているとの指摘を受けた。

③ これからの子供に対する自転車交通安全教育の位置づけと方法について考察した

- (1) 座学と技術の両面からの交通教育
- (2) 遊び, 体験, 旅の道具の視点からの交通教育
- (3) 公道に出ることを前提にした実践的な教育
- (4) 自転車を子供の成長に繋げるといった考え

(集団性, 遵法性, 達成感, 社会でのルール, リスク対応)